目　　次

1．あ　ら　ま　し

2．構　　造

3．諸　　元

4．積付け場所

5．使　用　方　法

5．1　いかだの投下膨脹

5．2　いかだへの乗込み

5．3　格納袋．コンテナーの回収

5．4　天幕の展張

5．5　もやい綱の切離し

5．6　本船からの離脱

5．7　補充用空気弁の操作

6．艤装品およびその用途

7．使用後の処置

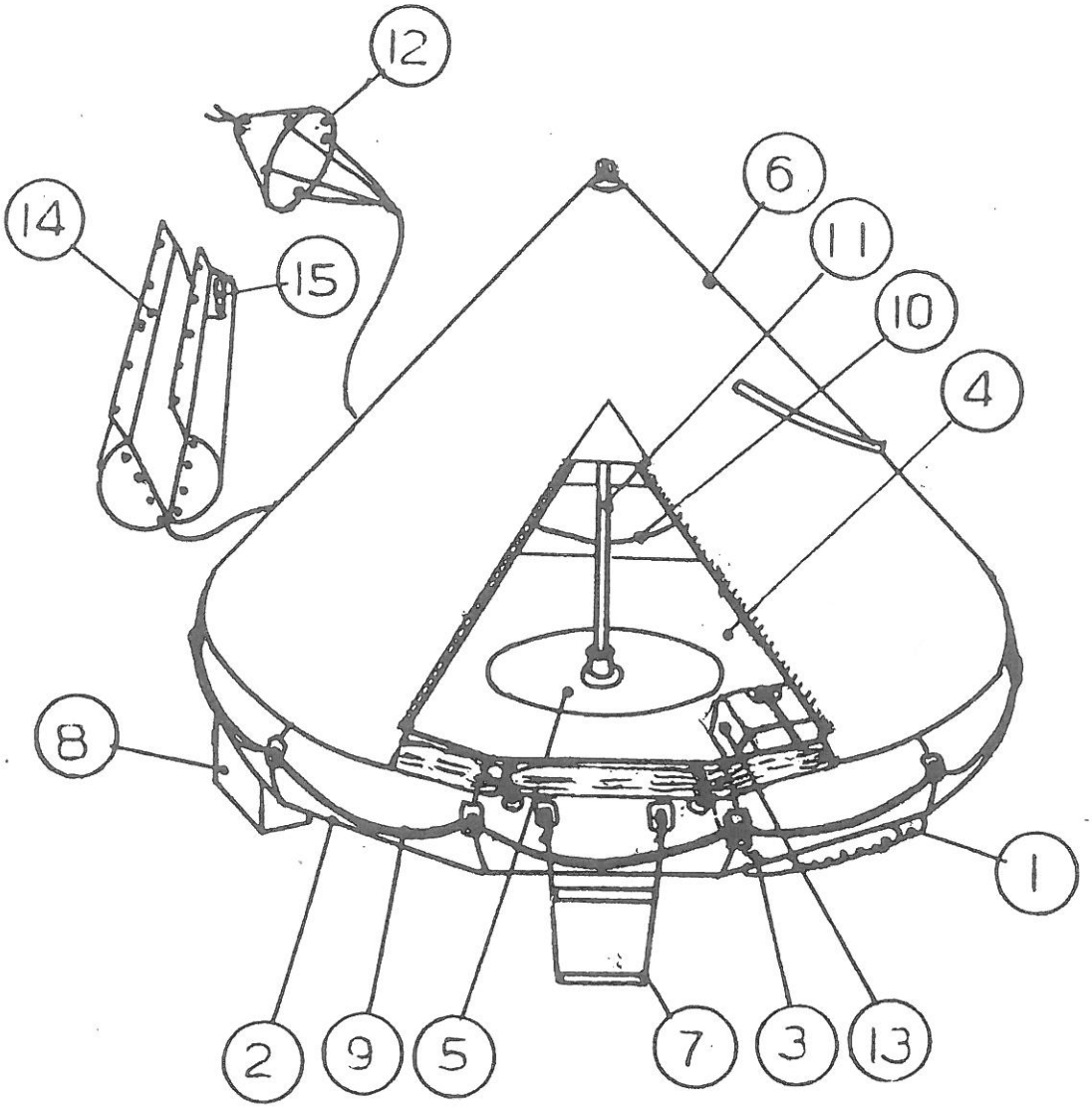
8．そ　の　他

1．あ　ら　ま　し

この「膨脹式救命いかだ」は、小型船舶安全規則に基づき、小型船舶が遭難した場合に、乗船者を救助する目的で製作されたものです。

2．構　　造

この救命いかだは、炭酸ガスで自動的に膨脹する主気室および手動で展張する天幕、ならびに防水性の床布から成り立っています。主気室は垂直隔膜で二気室に仕切られており、一方の気室が破損した場合でも残りの気室浮力で定員を水面上にささえることができる構造のものであります。又、中央部にはフイゴで膨脹する補助気室があり充気することで一層より良い居住性が得られます。艤装品は、一括して艤装品袋に納められ、床面に設置してありますので必要に応じて使用して下さい。
（使用方法は、Ｐ９を参照して下さい。）



図－1　救命いかだ

1. 炭酸ガス容器	7. はしご	13. 艤装品袋
2. 主気室	8. 安定水のう	14. 格納袋
3. 垂直隔膜	9. 外周救命索	15. ナイフ
4. 床布	10. 内周救命索	
5. 補助気室	11. 支柱	
6. 天幕	12. シーアンカー	

3．諸　元

諸元＼型式		FRC－4	FRC－5	FRC－6	FRC－8	FRC－10
いかだ外径（M）		1.92	2.10	2.24	2.50	2.72
主気室の直径（M）		0.3	0.32	0.34	0.365	0.39
〃　浮力（kg）		345	431.5	520.2	683	852.1
全浮力（kg）		740	940	1130	1560	2000
全備重量（kg）	近	32.8	34.0	36.6	43.8	44.8
	沿	28.9	30.1	32.7	39.9	40.9
コンテナー寸法（M）	角型	0.83×0.505×0.34			φ0.5×1.0	
	丸型	φ　0.4×0.8				
ボンベの容量 CO_2 充てん量		1.6ℓ / 0.78kg	1.6ℓ / 0.95kg	2.9ℓ / 1.18kg	2.9ℓ / 1.55kg	2.9ℓ / 1.9kg

4．積付け場所

救命いかだは次の要件にあった適当な場所に積付けて下さい。

o　非常の場合に容易、かつ迅速・安全に、いずれの舷からもいかだを投下でき、乗込みを妨げない場所。

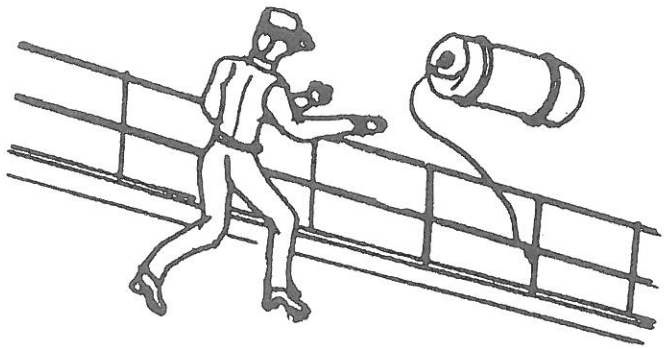
- 常に点検でき、監視員の目のとどく場所。
- 本船が沈没した場合、自動的に浮揚して船舶より離脱できる場所。
- 煙突からの煤煙及び火花・雨水・油・波・その他の損傷から保護できる様な場所。所定の位置に救命いかだを取付けたならば、自動索を本船の一部にしっかり結びつけて下さい。丸型コンテナーを使用の場合は、上・下蓋の合わせ目が絶えずま横になるように、又、角型コンテナーでは上・下を逆さにしないように注意して下さい。

5。使　用　方　法

投下使用のときは、船体の一部に自動索が連結されているか。本船のまわりに浮遊物障害物などがないか、あらかじめ確認してから投下して下さい。

5・1　投下膨脹

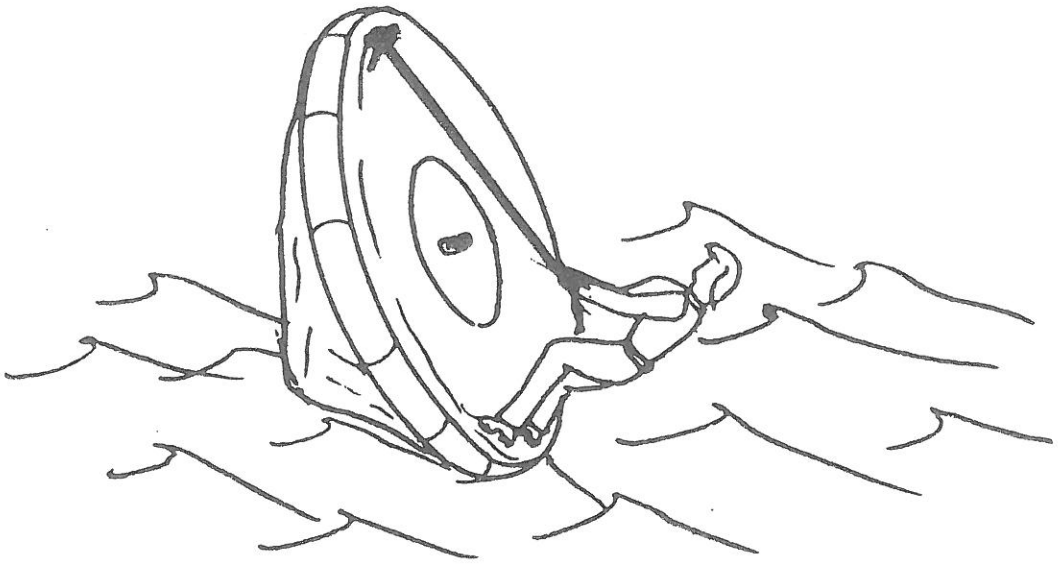
救命いかだをコンテナーと共に海面に投下して下さい。落下中に、自動ガス膨脹装置が作動して、いかだ本体が膨脹します。投下しても自動索が長くて作動しない場合は自動索をたぐって強く引くと膨脹します。（図－２）



図－２

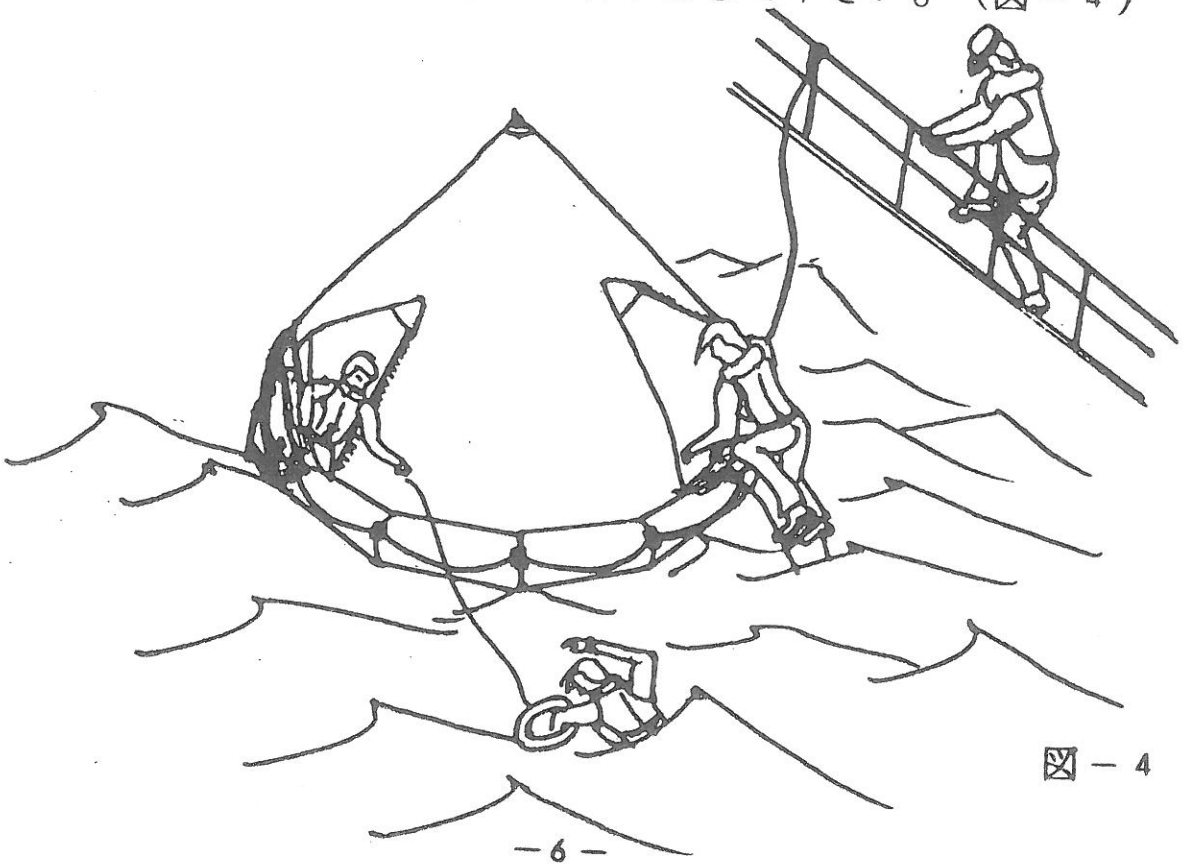
5　2　いかだへの乗込み

投下して半分以上膨脹すれば、乗込んで差支えありません。本船のはしごおよび本船からいかだへの飛乗り、ならびに海面からも乗込むことができます。海面から乗込む場合は、いかだの乗り口に設けられたはしごを利用して下さい。いかだを投下したとき、正常な姿勢で膨脹しますが、万一、反対に膨脹した場合は、いかだ底面に復正索が設けられていますので、その復正索につかまりながらガス容器の上にのぼり、体重をかけて引き越すと、一人で容易に反転できます。（図－３）



図－３

海面に浮遊している遭難者には「浮き輪」を投与し、つかまらせ筏への乗り込みの助けとして下さい。（図－４）



図－４

５．３　格納袋・コンテナーの回収

膨脹したいかだの外側海面に格納袋・コンテナーが浮遊していますので回収して下さい。

５．４　天幕の展脹

艤装品袋から天幕支柱を取り出し、継ぎ合せてから天幕の下に入り、天幕頂部の支柱座に支柱を差込み天幕を持ち上げながら支柱下部を床の支柱座に挿入して下さい。

５．５　もやい綱の切離し

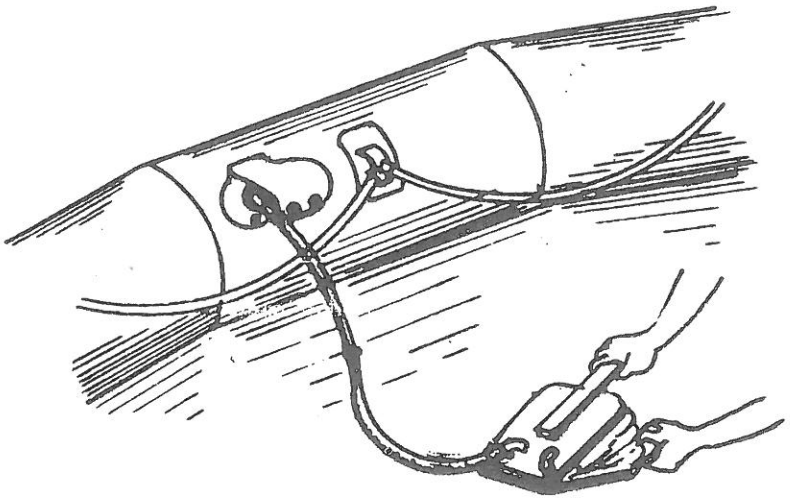
回収した格納袋の外側にナイフが取付けられていますので、取り出してもやい綱を切断して下さい。

５．６　本船からの離脱

いかだが膨脹すると同時にシーアンカーは自動的に海中に沈みますので本船から離脱するときにはシーアンカーを回収して下さい。
艤装品袋から「かい」を取り出し、乗入口から本を出して合図に合わせこいで、すみやかに本船から離脱して下さい。

5．7　補充用空気弁の操作

気室に空気を補充する場合、又、余剰空気を放出する場合は、この補充用空気弁を使います。
補充は、キャップを外し、手フイゴの栓を空気弁に差し込み操作します。完全放出は、空気弁をゆるめ弁座から外すと空気が抜けます。又、圧力過剰の場合は空気弁をゆるめて、少しづつ抜いて下さい。（図－5）



図－5

6．艤装品および、その用途

名　　称	数量	摘　　要	使　用　効　果
浮　　輪	1個	長さ30ｍの索付き	漂流者に投げて救助をする
ナ　イ　フ	1〃		もやい索の切断
あ　か　く　み	1〃		いかだ内部に浸入した海水の汲み出し、微量の水の吸出
ス　ポ　ン　ジ	1〃		
シ　ー　ア　ン　カ　ー	1〃	常時いかだ本体に取付け	荒天のときの転覆防止　漂流を防ぐ
か　　い	2本		本船からの離脱に使う
修　理　用　具	1式		気室の漏洩する箇所を応急的にふさぐ用具
フ　イ　ゴ	1個		気室に空気を補充する用具
※救　難　食　糧	3食/1人		漂流中の体力保持用
※飲　料　水	0.5ℓ/1人		漂流中は雨水を採取して飲料水の節約をはかる
※コ　ッ　プ	1個		飲料水の節約　等分配給に使う
※　　笛	1〃		暗やみ時、又は離船時、かいの合図に使う
※応急医療具	1式		応急的に使用する医薬品のセット
※救命信号説明書	1部		万国共通の救命信号の送受信解読指導書
※小型船舶用火せん	2個		100(M)の高度まで打上げ、遭難者の存在を知らせる
信　号　紅　炎	2〃		救助の合図をするとき、3分間紅えんを上げてもえる
※水　密　電　気　燈	1〃	予備電池・電球付	防水性の懐中電灯でモールス信号を発する
※日　光　信　号　鏡	1〃		日光を反射させ、遭難者の存在を知らせる

小型船舶安全規則第48条．第2項に適合する小型船舶には※印の艤装品を備えつける必要はありません。

使用後の処置

いかだを船上または、岸に引上げ、真水で十分洗滌し、日影で乾燥させます。その後、整備・点検を必要としますので最寄りのサービス・ステーションにご連絡下さい。

8。　その他

運搬は、手かぎを用いたり、投げおろしたり、引きずったりしないこと。整備されたいかだは自動索のついている方を絶対に下にしないで下さい。又、運搬中は自動索をひっかけないよう、粘着性のあるテープなどで保護して下さい。

行動指導書
救命いかだに乗込後直ちにとるべき行動

第２種膨脹式救命いかだ用

１．本船からの逃げ方

救命いかだへの乗艇が終れば速やかに本船船側を離れ、安全な場所へ移動する。

（１）もやい綱を切断し本船から離脱せよ
- 乗込口の天幕外側に取付けてある「安全ナイフ」でもやい綱を切断する。切断する場合いかだにもやい綱を５ｍ程残して切断する。（他の救命いかだとの連結に使用できる。）

（２）あらゆる手段を用い本船から離れよ
- 艤装品収納袋から２本の「かい」を取出し出入口開口部から漕ぐ、又「シーアンカー」は引き揚げ、風下へ移動する。

２．他の生存者を探し集結せよ

（１）水中漂流者を救助せよ
- 負傷あるいは意識喪失した漂流者から順次いかだに収容する。必要であれば「浮輪」を投げ救命いかだに引き寄せ収容すること。

（２）救命いかだを集結すること
- 漂流している救命いかだが他にあればできる限り集結し行動を共にすること。
  このことは避難者相互を勇気づけると共に、海、空からの捜索を容易にする。
- 夜間や波の高い場合「笛」等で積極的に合図を行う。
- もやい綱を利用して救命いかだを連結する。
  綱を結び付ける箇所は帯索が最も適当である。

３．救命いかだの機能及び必要な操作

これからの漂流に備え、いかだ内の生存環境を確保しいかだの安全を図り発見救助を容易にするため次の作業を行う。

（１）救命いかだが漂流していないか
- 救命いかだが風によって漂流されないよう「シーアンカー」を投入する。

（２）生存環境を確保する
- 救命いかだ内に海水が浸入している場合、「あかくみ」か「スポンジ」で排出する。
- 出入口を閉じ、波による浸水及び寒気を防ぐ。
- 「ふいご」により床気室を充気し、海水からの冷気をしゃ断させる。又、充気させることにより救命いかだは安定感を増し、居住性も向上させる。

（３）救命いかだの気室圧は正常か
- 気室の状況をチェックし、必要であれば「ふいご」により圧力調整を行う
- 洩れなどがあれば艤装品の応急修理用具で補修する。

（４）レーダー反射器の取付
- 艤装品の中からレーダー反射器を取り出し、組立て救命いかだ外部の所定位置へ取付ける。救助船や捜索機のレーダーに確実にキャッチされる。

４．生き抜くために必要な知識

救命いかだにより生存維持を達成させ、無事救助されるためには生き抜くための知識、救命いかだの設備、艤装品の取扱、漂流中における知識等を熟知していなければならない。そのためには、必ず説明書、指導書を読まなければならない。

説明書・指導書の種類及び内容

種　　類	内　　容
行動指導書	救命いかだに乗込後直ちに取るべき行動を示したもの。
取扱説明書	救命いかだの設備と艤装品の適切な使用法
生存指導書 （生き抜くために） 筆記用具付	生存する方法を示す指導書 救命信号説明書付